

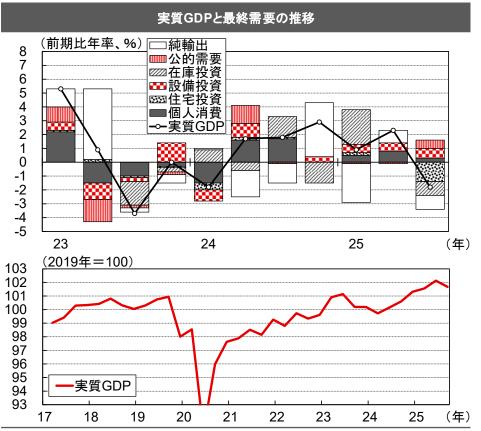
経済情報:2025年7-9月期の 実質GDP成長率(1次速報値)

2025年11月17日 三菱UFJ銀行 経営企画部 経済調査室



1. 要旨

- 2025年7-9月期の実質GDP成長率(1次速報値)は前期比年率▲1.8%となり、6四半期ぶりのマイナス成長となった。内需は、 設備投資の増加が続いた一方、個人消費の減速に加え、今年3月までの駆け込み需要の剥落等により住宅投資が大きく減少。 外需は、米国の関税影響の顕在化により輸出が減少した。
- 足元では今年の春闘における高い賃上げが、賞与や給与の増加を通じて、賃金に反映されているものの、食料を中心とした物価上昇が続いているため、消費者マインドの悪化は続いており、これが消費の伸びを抑制しているとみられる。
- 先行き、米国の関税政策の影響を受けた外需の落ち込みは改善に向かい、法改正による住宅投資への影響も一巡が見込まれる。こうしたなか、企業収益は底堅さを保ち、企業の高い設備投資意欲や、人手不足等を背景とした賃上げの流れは維持されると見込まれることから、実質賃金の改善や堅調な設備投資等を支えに、緩やかな景気回復が続くと予想。



(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

四半期別実質GDPの推移(計数)

			2025年	2025年	2025年7-9月期(1次速報値)	
			1-3月期	4-6月期		(寄与度)
実質GDP		DP	0.9	2.3	1 .8	_
	民	間需要	5.2	1.9	▲ 1.8	(▲ 1.3)
		個人消費	1.0	1.5	0.6	(0.3)
		住宅投資	5.4	1.3	▲ 32.5	(A 1.4)
		設備投資	3.5	3.3	4.2	(0.7)
		在庫投資	(2.5)	(0.0)	_	(▲ 1.0)
	公	的需要	▲ 0.4	▲ 0.3	2.2	(0.6)
		政府消費	▲ 1.7	0.5	2.1	(0.4)
		公共投資	2.2	▲ 0.4	0.5	(0.0)
	純輸出		(▲ 2.8)	(0.9)	_	(▲ 1.0)
		輸出	1 .6	9.6	▲ 4.5	(▲ 1.1)
		輸入	10.4	5.1	▲ 0.4	(0.1)
GDPデフレーター(前期比)		プレーター(前期比)	0.7	1.0	0.6	_
名目GDP		DP	3.8	6.5	0.5	_

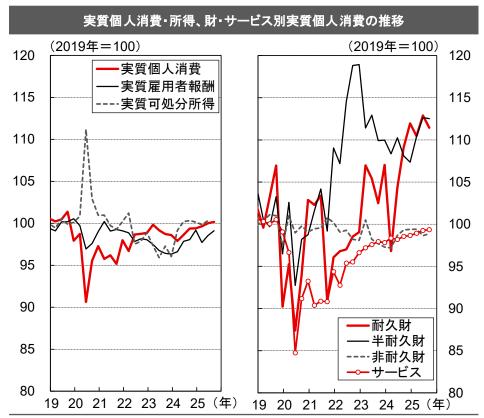
(注)カッコ内は、実質GDPの前期比年率伸び率に対する寄与度。 (資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成



(前期比在率 %)

2. 内需項目

- 個人消費は前期比年率+0.6%と、6四半期連続で増加。猛暑の影響により、飲料の販売は伸びたほか、外食などの飲食サービスもプラスであったとみられるものの、物価高を背景とする家計の節約志向が続いていることが、消費を抑制しているとみられる。
- 設備投資は同+4.2%と、4四半期連続で増加。人手不足を背景とした省力化投資等、企業の設備投資の意欲は続いている模様。
- 住宅投資は同▲32.5%と、3四半期ぶりに大幅減少。今年4月から住宅の省エネルギー基準が改訂されたことを受け、今年3月までに生じた駆け込み需要の反動減が要因。
- 公的需要は同+0.5%と、5四半期ぶりのプラス成長。







(資料)内閣府統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成



3. 外需項目

- 輸出は前期比年率▲4.5%と、2四半期ぶりに減少。米国の関税政策の影響による自動車の輸出減少等が背景にあるとみら れる。
- 輸入は同▲0.4%と、3四半期ぶりの減少。原油・天然ガスの減少が主な要因。
- 結果として、純輸出(輸出-輸入)の寄与度は同▲1.0%ポイントと2四半期ぶりのマイナス。





当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。 ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できる と思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。 内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により 保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。



会社名:株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室

〒100-8388 東京都千代田区丸の内1-4-5 三菱UFJ信託銀行本店ビル

照会先:中山 健悟 e-mail:kengo_nakayama@mufg.jp

